

2017年度

〈〈 第14期 〉〉

事業計画 主な項目



2017年3月
東京地下鉄株式会社



東京メトロ

中期経営計画 東京メトロプラン2018		P3
2017年度 事業計画のトピックス		P4
安心の提供	自然災害対策	P6
	鉄道の安全・安定運行に向けた取組み	P7-9
	輸送サービスの改善	P10
	バリアフリー設備整備	P11
	銀座線リニューアル	P12
	利便性・快適性向上	P13-14
	東京の地下鉄サービスの一体化	P15
成長への挑戦	お客様ニーズへの対応 ・ 東京とともに成長	P17
	関連事業の拡大	P18
	海外鉄道事業の新たな展開 ・ 新たな事業領域への挑戦 ・ 新技術の開発・導入	P19
経営基盤の強化	経営基盤の強化	P21
2017年度 設備投資予算		P22
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組み		P23

キーワード
～「安心の提供」と「成長への挑戦」～

安心の提供

「安心＝安全＋サービス」の考えのもと、「世界トップレベルの安心」を提供する地下鉄を目指し、ハード・ソフト両面での各種施策をこれまで以上に加速させていきます。

成長への挑戦

「安心の提供」を大前提とした上で、新たな価値を生み出す取り組みの全てを「成長」と位置づけます。

経営基盤の強化

「安心の提供」「成長への挑戦」の実現を確かなものとするため、経営基盤の強化を図っていきます。

私たちの決意

安心 = 安全 + サービス

～全てのお客様に安心してご利用いただくために～

全てのお客様に東京メトロを「安心」してご利用いただきたい。
それは、たゆみなき「安全」の追求と、お客様視点に立った質の高い「サービス」の提供、
この双方がそろって初めて可能になると私たちは考えます。
私たちは、お客様に「安心」をお届けできるよう、より一層努力していきます。

P7

ホームドアの整備

全駅へのホームドア整備に向け、取組みを加速させます。
2017年度は14駅にホームドアを設置します。



P8

「見守る目」の強化

全駅へのホームドア整備推進に加え、「見守る目」の強化等により、駅ホームにおけるさらなる安全性向上に取り組んでいきます。



P12

銀座線 リニューアル

全駅の改装やホームドアの設置をはじめとするリニューアルを進めます。
2017年度は、下町エリアの駅改装等が完了するとともに、地下鉄開通90周年を記念したイベント等を実施します。



P22

2017年度 設備投資予算 1,530億円

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も見据え、全てのお客様に「安心」して地下鉄をご利用いただけるよう、過去最高の規模となる1,530億円の設備投資を計画しています。



1

安心の提供

「安心=安全+サービス」の考えのもと、
「世界トップレベルの安心」を提供する地下鉄を目指し、
ハード・ソフト両面での各種施策をこれまで以上に加速させていきます。

震災対策、大規模浸水対策等を推進するとともに、災害時の適時適切な情報提供の充実を図ります。

震災対策

- 首都直下型地震等に備え、震災発生時にも早期の運行再開ができるよう、高架橋柱約1,200本の補強及び地上部の石積み擁壁約1,800mの補強を推進します。



▲高架橋柱補強



▲石積み擁壁補強

異常時の体制の確立

- 事故・災害発生時、訪日外国人のお客様への情報提供の充実を図るため、改札口ディスプレイ、駅構内一斉放送、車両内緊急放送における多言語での対応を行っていきます。
- メガホン型多言語音声翻訳サービスの運用等、異常時の情報提供・ご案内を強化します。



◀メガホン型多言語音声翻訳サービス

大規模浸水対策

- 自社出入口だけでなく、当社の駅と接続する民間事業者の出入口を含め、対策が必要な全ての出入口への浸水対策を進めます。



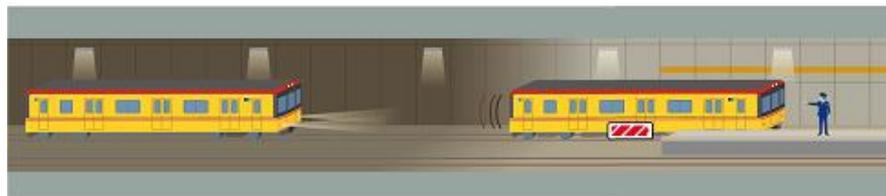
▲浸水対策前



▲浸水対策後(防水扉設置)

大規模停電対策

- 停電によって列車が駅間に停止した場合でも、最寄駅まで走行が可能となるよう、銀座線の車両に非常用走行バッテリーの搭載を進めます。また、丸ノ内線においても、2018年度からの搭載に向けて準備を進めます。
- その他路線への電源の整備についても検討していきます。



▲非常用走行バッテリー搭載車(イメージ)

トピックス

全駅へのホームドア整備に向け、取組みを加速させます。
2017年度は14駅にホームドアを設置します。

ホームドアの整備

- お客様のホームからの転落事故や列車との接触事故を防止するため、全駅へのホームドア整備を進めます。

2017年度 ホームドア設置予定駅(14駅)

Ⓒ 銀座線

浅草駅、田原町駅、稲荷町駅、上野駅*、上野広小路駅、末広町駅、神田駅、三越前駅、日本橋駅、赤坂見附駅、青山一丁目駅、外苑前駅

Ⓓ 東西線

九段下駅

Ⓔ 半蔵門線

九段下駅

2017年度末
設置率55%予定

*上野駅は浅草方面行ホームへ設置(渋谷方面行ホーム設置済)

各路線ホームドア設置計画

引き続き全駅へのホームドア早期設置に向けて取り組んでいきます。

Ⓒ 銀座線

2016年度から設置開始
上野駅(渋谷方面行ホーム)設置済

▶ 2018年度上期全駅設置完了予定
大規模改良工事を行っている新橋駅・渋谷駅を除く

Ⓕ 丸ノ内線

全駅設置済

Ⓗ 日比谷線

2020年度から設置開始

▶ 2022年度全駅設置完了予定

Ⓓ 東西線

2017年度から設置開始

▶ 2019年度末までに先行6駅※に設置予定

Ⓒ 千代田線

2018年度から設置開始
北綾瀬駅・綾瀬駅(北綾瀬方面行ホーム)設置済

▶ 2020年度全駅設置完了予定

Ⓕ 有楽町線

全駅設置済

Ⓔ 半蔵門線

2017年度から設置開始

▶ 2019年度末までに先行7駅※に設置予定

Ⓗ 南北線

全駅設置済

Ⓕ 副都心線

全駅設置済



▲銀座線ホームドア(イメージ)



▲東西線ホームドア(イメージ)

※お身体の不自由なお客様のご利用が多い駅などを考慮して選定

トピックス

全駅へのホームドア整備推進に加え、「見守る目」の強化等により、 駅ホームにおけるさらなる安全性向上に取り組んでいきます。

「見守る目」の強化

- ハンズフリー型インカムを活用し、目の不自由なお客様のご利用が特に多い駅において、改札口・ホーム・駅事務室間のご利用情報の共有を迅速に行うことで、安全確保上の連携を図ります。
- 全駅社員によるサービス介助士資格※取得の推進やバリアフリーに関する研修等を実施し、お身体の不自由なお客様等に安心してご利用いただけるような接客やお手伝いを行います。
- 駅社員等によるお声かけを行うとともに、ご利用のお客様にもお声かけ等をお願いするポスターを掲出することにより、社会全体でお身体の不自由なお客様等を見守ることができるような風土を醸成します。



▲ハンズフリー型インカム



▲バリアフリーに関する研修の様子

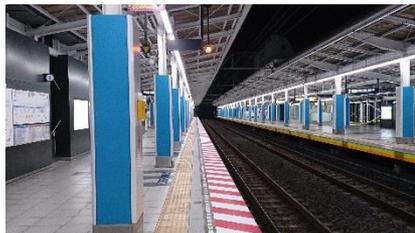


▲見守る風土の醸成のためのポスター

※サービス介助士資格とは
お身体の不自由なお客様等に安心してご利用いただけるような接客やお手伝いができるよう、公益財団法人日本ケアフィット共育機構が指定する研修を受講した者に与えられる資格です。

その他の駅ホームの安全性向上施策

- お客様のホームからの転落事故防止のため、注意喚起シートの貼付等、注意喚起を促す取組みを検討・実施していきます。



2017年度
34駅設置予定

◀注意喚起シートの貼付

新型車両の導入やセキュリティの強化等、安全・安定運行に向けた取組みを進めていきます。

新型車両の導入

- 千代田線への導入を完了させるとともに、日比谷線への導入を進めます。



2017年度
導入完了予定

▲千代田線新型車両



2020年度導入完了予定

▲日比谷線新型車両

ホームドア設置に向け、新型車両の導入により、車両のドア数を統一します。

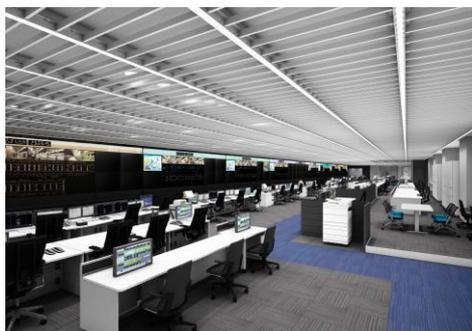
操舵台車の採用により、走行安全性の向上や、振動・騒音の低減による乗り心地の向上を図ります。



操舵台車

総合指令所の機能強化

- 首都直下型地震等に備え、総合指令所の免震化、非常電源の長時間化、通信設備の一部多重化等を完了します。



▲総合指令所(イメージ)

セキュリティ強化

- テロ行為や駅構内等の犯罪に備え、駅構内におけるセキュリティカメラの増設・機能向上や、2018年度からの車両内へのセキュリティカメラ設置に向けた取組みを進め、セキュリティ強化を推進します。



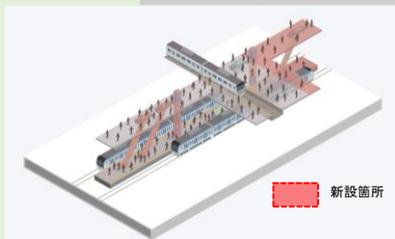
▲車両内セキュリティカメライメージ(赤丸部)

混雑緩和が喫緊の課題である東西線において、大規模な改良工事を実施する等、抜本的な対策を確実に実行していきます。

東西線の輸送改善

■ 茅場町駅におけるホーム延伸等の大規模改良

2020年度供用開始予定

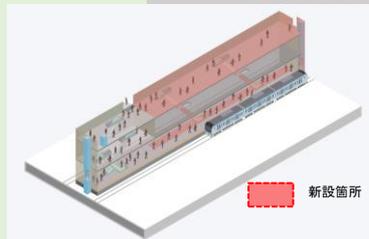


▲改良イメージ

ホームを40m延伸することで列車停止位置変更とエスカレーターの増設が可能となり、お客様の流れを分散し混雑緩和を図るとともに、日比谷線への乗換えをスムーズにします。

■ 木場駅におけるホーム・コンコース拡幅等の大規模改良

2021年度供用開始予定

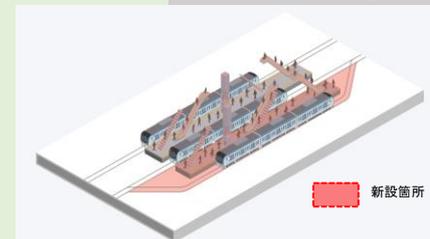


▲改良イメージ

ホーム・コンコースを拡幅するとともに、エスカレーター・エレベーターを増設し、お客様の流れを分散することで、混雑緩和を図ります。

■ 南砂町駅における線路・ホームの増設等の大規模改良

2021年度供用開始予定



▲改良イメージ

ホーム1面、線路1線を増設し、2面3線化することで列車の交互発着が可能となり、ホーム上の混雑が緩和され、遅延防止、安全性・利便性の向上を図ります。

■ 飯田橋駅～九段下駅間における折返し線の整備

2019年度供用開始予定

既存の折返し線を本線化し交差支障を解消することで、折返し列車と後続列車の同時運行が可能となり、将来の列車増発を実現します。

■ オフピークキャンペーンの実施

混雑緩和・遅延抑制に有効な「オフピーク通勤(通学)」のさらなる推進を図るため、2007年から東西線で実施している「早起きキャンペーン」について、より多くのお客様に参加していただけるよう、キャンペーン期間の拡大や通年化を進めるとともに、ご参加いただいたお客様に進呈する特典の魅力を高めていきます。

全駅へのエレベーター1ルート整備と多機能トイレの整備を進めるとともに、エレベーターによる複数ルート等の整備を進めます。

全駅へのエレベーター1ルート整備

- 高齢者やお身体が不自由なお客様も、シームレスに安心してご利用いただけるよう、全駅へのエレベーターによる1ルート整備を進め、2019年度完了を目指します。

2017年度
5駅完成予定
(整備率86%予定)

G 銀座線

京橋駅、外苑前駅

M 丸ノ内線

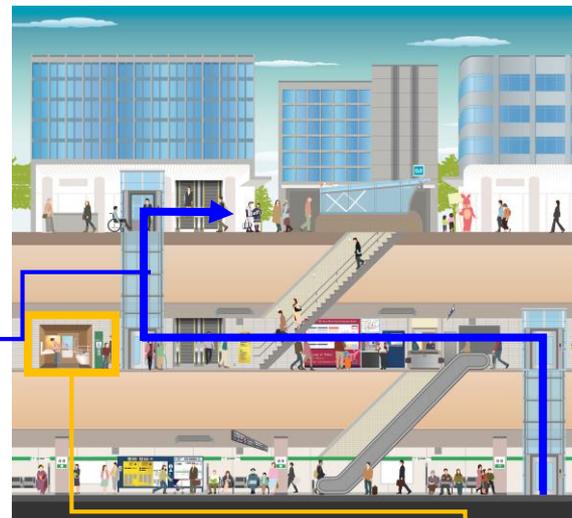
四ツ谷駅、方南町駅

T 東西線

早稲田駅

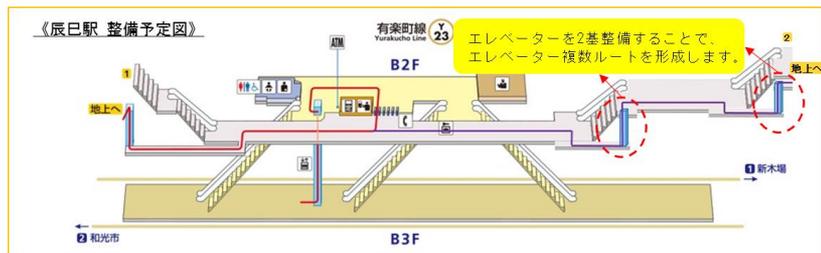


▲エレベーター1ルート整備



エレベーター複数ルート整備

- 全駅へのエレベーターによる1ルート整備に加え、病院に近い駅、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場最寄駅等で複数ルートの整備を推進します。
- 2017年度は、水泳会場の最寄駅である辰巳駅等で、既に整備されているエレベーター1ルートに加え、複数ルートを整備します。



全駅への多機能トイレの整備

- 乳幼児をお連れのお客様やお身体の不自由なお客様等にご利用いただけるよう、ベビーシートやベビーチェアなどの乳幼児用設備やオストメイト対応設備等を備えた多機能トイレの整備率100%を目指します。



▲多機能トイレ

開通90周年を迎える銀座線で、駅と街との近さやつながりを大切に、街の雰囲気を感じ、より快適にご利用いただけるよう、リニューアルを進めていきます。

全駅の改装やホームドアの設置をはじめとするリニューアルを進めます。
2017年度は下町エリアの駅改装等が完了するとともに、
地下鉄開通90周年を記念したイベント等を実施します。

トピックス

駅改装

- 下町エリア(浅草駅、田原町駅、稲荷町駅、上野駅、上野広小路駅、末広町駅、神田駅)の駅改装が完了します。
- その他のエリアについても、順次リニューアルを行っていきます。



▲上野駅改装イメージ

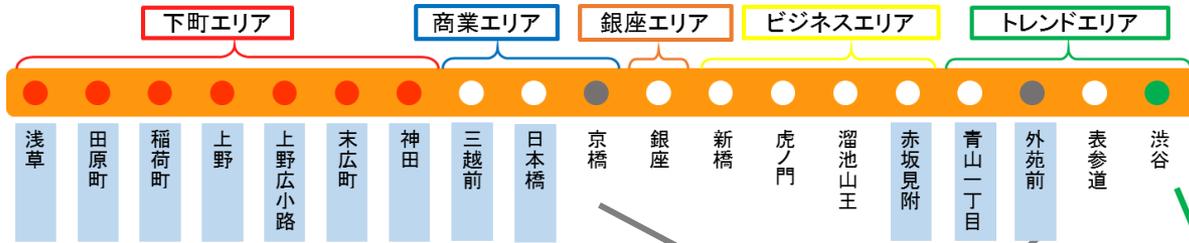
2017年度
下町エリア
完了予定

地下鉄開通90周年を記念した
各種イベント等の実施

- 開通当時の車両をモチーフにした1000系特別仕様車両を活用したイベントを実施します。
- 車両基地イベントやメトロ文化財団主催のコンサート等と連携し、各種イベント等を実施します。



▲特別仕様車両



2017年度ホームドア設置予定駅

ホームドアの整備

再掲

- 浅草駅～神田駅間において駅改装とともに整備を完了し、さらに三越前駅、日本橋駅、赤坂見附駅、青山一丁目駅、外苑前駅においても設置が完了します。

バリアフリー設備整備

再掲

- 京橋駅、外苑前駅において、エレベーターによる1ルート整備を完了します。

渋谷駅街区基盤整備の一環である
渋谷駅の移設工事

- 渋谷駅を移設・改良し、乗換利便性の向上、バリアフリー設備の整備等を進めます。

2019年度新ホーム供用開始予定



▲移設工事後の渋谷駅イメージ(ホーム)

駅空間の快適性向上や情報提供・ご案内の強化、乗換駅の追加設定等の利便性・快適性向上に取り組みます。

快適なトイレ環境の整備

- 2019年度までの完了を目指し、一般トイレ全個室の洋式化を順次進めます。
- 温水洗浄便座、手指乾燥機、便座クリーナーを備えた清潔で快適なトイレを順次提供します。



▲女性トイレ(イメージ)



▲男性トイレ(イメージ)

案内サインのリニューアル

- 案内サインのリニューアルを以下3路線で完了します。その他の路線でも順次リニューアルを進めます。



2017年度
完了予定



▲駅ナンバリングの活用

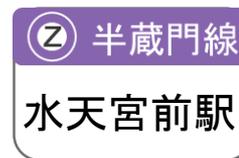
※大規模改良工事駅を除く



▲表記の大きさや設置位置の工夫

乗換駅の追加設定

- ネットワークの利便性向上を図るため、専用の地下通路を有していない近接駅2か所を新たに乗換駅として設定します。



2017年度
開始予定

※日比谷線⇄半蔵門線間で初の乗換駅設定となります。



2017年度
開始予定

多言語でのご案内の充実など、海外からのお客様にも地下鉄をわかりやすく快適にご利用いただくための取組みを積極的に進めていきます。

多言語でのご案内の充実

自動旅客案内装置

- 自動旅客案内装置の増設・リニューアルにより、4か国語（日・英・中・韓）に対応するとともに、駅ナンバリング等の案内情報を充実させます。

2019年度完了予定



▲自動旅客案内装置(イメージ)

旅客案内所

- 訪日外国人のお客様からの多様なニーズにお応えできるよう、英語、中国語でのご案内が可能な旅客案内所の増設に取り組みます。

2018年度 東京駅へ増設予定



▲旅客案内所

自動券売機・自動精算機

- 現状の4か国語（日・英・中・韓）に加え、対応言語の拡充を図ります。

2017年3月 フランス語追加
スペイン語追加
2018年春 タイ語追加予定



▲スペイン語画面(イメージ)

車両内ディスプレイ

- 車両内ディスプレイの3画面化により、多言語での情報をより見やすくわかりやすく提供します。

2018年度 銀座線完了予定
2020年度 日比谷線完了予定
2022年度 丸ノ内線完了予定



▲日比谷線車両内3画面ディスプレイ

訪日外国人のお客様向け無料Wi-Fiサービス

- 外国人のお客様からニーズの高い無料Wi-Fiの全駅（一部管理委託駅を除く）への整備が完了しました。
- 車両内における無料Wi-Fiサービスを順次導入します。

銀座線・日比谷線 2020年度完了予定
丸ノ内線 2022年度完了予定



新たな乗換駅設定や両地下鉄共同で開発した次世代券売機の導入、改札通過サービス等により、利便性を向上させます。

乗換駅の追加設定

- ネットワークの利便性向上を図るため、都営地下鉄との近接駅を新たに乗換駅として設定します。

2017年度
開始予定



共通企画乗車券のIC化

- 東京メトロ・都営地下鉄共通一日乗車券をPASMOに搭載可能とします。

2017年
4月1日
導入予定



▲ 共通一日乗車券 (PASMO搭載) (イメージ)

次世代券売機の導入

- 券売機操作に不慣れなお客様や訪日外国人のお客様向けに、両地下鉄共同で開発した次世代券売機の導入を開始します。

2017年度から
順次導入予定



▲ 路線図検索画面 (イメージ)

改札通過サービス

- 両地下鉄の駅構内を通過し、目的地近くの出入口をご利用いただくことができる改札通過サービスを、新たに日比谷線・都営浅草線人形町駅において導入します。

2017年
4月1日
開始予定



2

成長への挑戦

「安心の提供」を大前提とした上で、
新たな価値を生み出す取組みの全てを「成長」と位置づけ、
「成長」に向けた取組みを積極的に進めていきます。

お客様のニーズをとらえたサービスや商品を提供するとともに、駅周辺のまちづくりとの連携を強化することにより、人の動きや集まりを生み出していきます。

お客様ニーズをとらえたサービス・商品の提供

「Tokyo Subway Ticket」の利用促進

- 旅行者向け企画乗車券「Tokyo Subway Ticket」を海外の現地旅行博覧会等で積極的にPRするほか、販路の拡大を図ります。



▲タイ・バンコクの旅行博覧会

まちづくりとの連携

駅周辺開発における公募型連携プロジェクト

- 駅とバリアフリー対応の接続を前提とした開発計画を募集し、当社と協議・調整の上、「まちの顔」となる駅出入口の設置を含めた駅周辺の開発を目指します。

【第3弾】3駅対象に2017年2月1日から5年間募集

🅂 丸ノ内線 方南町駅

🅄 千代田線 根津駅

🅆 半蔵門線 押上駅

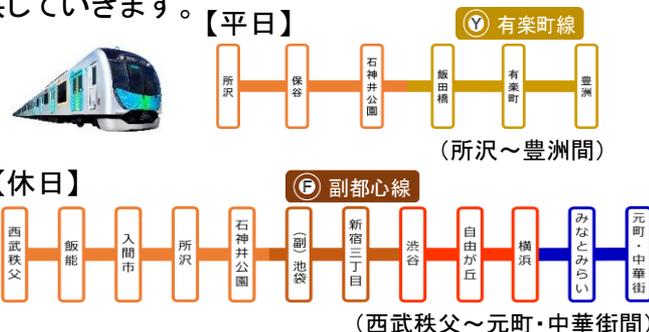
※これまでの実施対象
第1弾 (千)赤坂駅(日)茅場町駅
第2弾 (東)高田馬場駅(東)東陽町駅
(半)水天宮前駅(日)小伝馬町駅
(千)湯島駅

有楽町線・副都心線の着席サービス

- 2017年3月25日から有料座席指定列車「S-TRAIN」の運行を相互直通各社と共同で開始しました。今後お客様のニーズに対応したサービスを提供していきます。



▲有料座席イメージ



日比谷線虎ノ門新駅(仮称)の整備

- 独立行政法人都市再生機構から設計・工事を当社が受託し、整備を推進します。

2020年度供用開始予定



▲虎ノ門新駅(仮称)イメージ

銀座線虎ノ門駅周辺開発と連携した駅改良

- 虎ノ門駅前地区再開発と連携した地下接続により、渋谷方面ホームの拡幅、出入口の新設等を進めます。

2022年度完了予定

不動産事業、流通・広告事業の積極的な展開により、
収益力向上に取り組んでいきます。

不動産事業

- 近隣の不動産所有者と連携し、まとまりのある不動産区画での開発を行い、駅直結のエレベーターやエスカレーター、さらには地下空間と一体となった建物を整備していくことを目指していきます。このことにより、関連事業の「地下から地上へ」の展開の足掛かりにしていきます。

【不動産完成イメージ】



▲半蔵門



▲六本木

流通事業

- 駅の利便性向上を図るため、引き続き駅工事等により創出されたスペースの開発を実施していくとともに、訪日外国人のお客様ニーズにもお応えするサービスを積極的に提供していきます。



▲中野坂上メトロピア(イメージ)



▲海外カード対応ATM

広告事業

- 従来の紙面を主体とした広告媒体の見直しや、新たな広告媒体の開発を推進し、交通広告のさらなる成長を検討していきます。さらに、交通広告のほか、多角的成長の実現を目指し、様々な事業分野への進出に挑戦していきます。

Metro Concourse Vision

- 駅構内コンコースの柱などを活用したデジタルサイネージは、2017年度末までに約500面の体制となり、今後もより充実したネットワークを構築していきます。



◀ Metro Concourse Vision

2017年度
3 駅 151 面
設置予定



▲新宿スーパープレミアムボード



▲Tokyo Metro Vision

海外鉄道事業や新たな事業領域への挑戦、新技術の開発・導入に、積極的に取り組んでいきます。

海外鉄道事業の新たな展開

ハノイ市都市鉄道整備への支援

- 設立支援したベトナム・ハノイ市都市鉄道会社「ハノイ・メトロ・カンパニー」に対する支援を継続し、都市鉄道整備事業に貢献していきます。
- ベトナムにおいて都市鉄道の運営・維持に対する支援等を強化するため、事業案件の受注に向けた現地法人を設立します。

国際協力・国際交流の推進等

- JICAの都市鉄道整備関連調査への参画や現地鉄道関係者からの研修受け入れによる国際協力、国際公共交通連合(UITP)での活動等による国際交流を推進し、日本の鉄道文化を積極的に発信します。

新たな事業領域への挑戦

アクセラレータープログラム

- 「Tokyo Metro ACCELERATOR2016」で採択されたスタートアップ企業とパイロット施策を実施するなど、幅広い外部連携等を通じ、新たな事業領域に積極的に挑戦していきます。



▲「Tokyo Metro ACCELERATOR2016」



▲UITP展示会

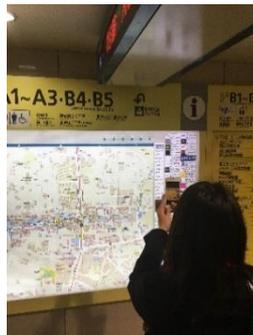


▲ハノイ・メトロ・カンパニーとの友好・協力に関する覚書締結式

新技術の開発・導入

駅構内ナビゲーションサービス

- 全てのお客様がわかりやすく快適に駅構内を移動いただけるよう、一部駅での駅構内ナビゲーションサービスの提供に向けて検討を進めます。



▲実証実験の様子



▲撮影イメージ

3

経営基盤の強化

「安心の提供」「成長への挑戦」の実現を確かなものとするため、
経営基盤の強化を図っていきます。

総合研修訓練センターを活用して、東京メトログループの発展を実現するための人財を育成するとともに、環境保全活動や社会貢献活動を展開していきます。

人財育成

- 「安心＝安全＋サービス」を確実に実現していくため、総合研修訓練センターを活用した部門横断訓練の拡充を図るなど、組織能力としての「現場力」を高める取組みを進めていきます。



▲総合研修訓練センター



▲訓練の様子

環境保全活動

- 地球環境保全を経営課題の1つととらえ、長期的かつ戦略的に、お客様や沿線地域とともに東京の環境負荷低減につながる様々な取組みを実施します。

車内・駅構内照明のLED化

太陽光発電システムの導入



2017年度
四ツ谷駅に
設置予定

◀ 太陽光発電システム
(イメージ)

社会貢献

- 「良き企業市民」として社会の持続的発展に寄与するため、教育・文化・スポーツ等の分野を通じて社会貢献活動を展開していきます。

東京マラソンへの協賛

キッザニア東京へのパビリオン出展



▲東京マラソン



▲キッザニア東京

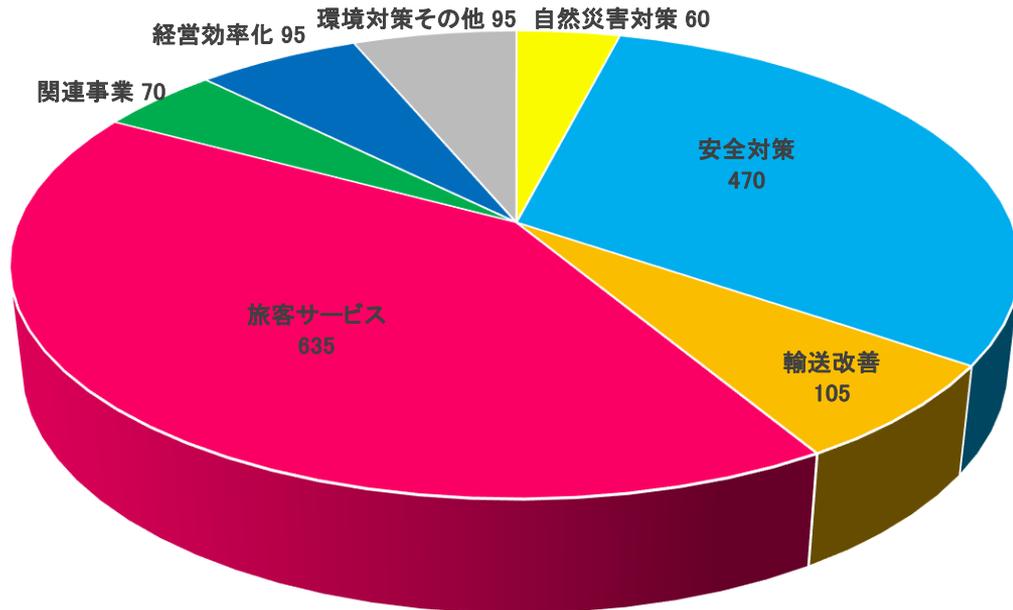
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も見据え、
 全てのお客様に「安心」して地下鉄をご利用いただけるよう、
 過去最高の規模となる1,530億円の設備投資を計画しています。

2017年度設備投資予算

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も見据えた各種施策は順調に進捗しています。
- 施策の進捗が最盛期を迎える2017年度は、過去最高の規模となる1,530億円の設備投資を計画しています。

2017年度予算 1,530億円

【単位：億円】



【単位：億円】

項目	2017年度予算
自然災害対策	60
安全対策	470
保安度向上	228
車両更新	159
ホームドア整備	57
その他	26
輸送改善	105
旅客サービス	635
バリアフリー整備	200
駅空間整備	265
改札周辺利便向上	25
その他	145
関連事業	70
不動産事業	60
流通事業	10
経営効率化	95
環境対策その他	95
合計	1,530

【単位：億円】

【参考】年度別設備投資額推移



※2016年度、2017年度は予算を記載

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組み

東京2020大会に向けたこれまでの経緯

- 2013年 9月 2020年のオリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定
- 2013年10月 東京2020大会の開催決定を受け、社長を推進本部長とする「2020年東京オリンピック・パラリンピック対策推進本部」を設置
- 2013年12月 推進本部で策定した基本方針に基づき「安全・サービス等の総点検」を実施
- 2014年 9月 安全・サービス等の総点検の結果を踏まえ「東京メトロ“魅力発信”プロジェクト」を策定
- 2016年 4月 東京メトロ“魅力発信”プロジェクトの各種施策を反映した中期経営計画「東京メトロプラン2018」を始動
- 2016年 6月 「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー（旅客鉄道輸送サービス）」に決定



東京2020オフィシャルパートナー（旅客鉄道輸送サービス）

▲東京2020デュアルコンポジットロゴ



▲オフィシャルパートナー発表会見

東京2020大会に向けた主な取組み

Keyword 1 世界トップレベルの安心でお出迎え

- 自然災害対策 ○ホームドアの整備 ○バリアフリー設備整備 ○セキュリティ対策 ○大会期間中の輸送サービス

Keyword 2 地下鉄をわかりやすく快適に

- Wi-Fi環境の整備 ○位置測位インフラの整備、ナビゲーションサービスの提供 ○多言語情報の充実

Keyword 3 沿線地域との連携、東京を楽しく

- 沿線地域の活性化 ○銀座線リニューアル



東京地下鉄株式会社

※注意事項

ここに掲載されている情報のうち、過去の実績以外のものは将来の見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。したがって、実際の業績はこれらと異なる結果になる場合がありますことをご了承ください。

発行：東京地下鉄株式会社

〒110-8614 東京都台東区東上野3-19-6

<http://www.tokyometro.jp/>

Copyright ©Tokyo Metro Co.,Ltd. All rights reserved.